

「日本遺産 竹内街道が通るまち 松原市」案内板

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)



▲立部新池跡の案内板 (立部4丁目) 右横が「新池改修記念」碑



▲西除橋・丹南橋間に設置された河合井堰 (岡7丁目・野遠町) 奥が西除橋



▲西除橋から南の丹南橋・八下遺跡方面をのぞむ



▲松原市境の西除川西除橋北東詰の案内板 (堺市北区野遠町)

西から岡に入る西除川西除橋 東からの立部新池跡の二か所

松原ロータリークラブ(加藤清久会長)は、このたび創立五十五周年を迎えたことを記念して、三月、市域を通る日本遺産・竹内街道を紹介する案内板を二か所に建てました。私はこの事業に関わりましたが、一基は西方の堺市境、北区野遠町の西除川を渡った西除橋北東詰の岡七丁目に接する堤上です。もう一基は、東方の羽曳野市境に近い、立部四丁目の府道大阪中央環状線東側の新池跡「新池改修記念」碑横です。新池については、本欄241「竹内街道と河内鑄物師の里」で触れています。

竹内街道を歩く人々に、市域を横切る約一・五キロの東西出入口を明らかにすることができたのです。設置にあたって、大阪府富田林土木事務所や同所松原建設事業所、堺市建設局土木部河川水路課、および立部水利組合に場所を提供いただきました。厚くお礼申し上げます。

さて、西方の堺市北区金岡方面から東に向かう竹内街道には、すでに堺市が設置した街道を示す立派な石の角柱が等間隔に建てられています。ところが、西除橋を渡った松原市域に入る岡七丁目には何の明示もなかったことから、松原ロータリークラブが同地に案内板を建てたことで、観光に力を入れる松原市の姿勢をアピールし、PRすることができたのです。

案内板は、「日本遺産 竹内街道が通るまち 松原市」と題し、構成文化財の難波大道(天美西)、岡遺跡・丹南遺跡、柴籬神社(上田)や日本で五番目に巨大な河内大塚山古墳(西大塚)も記載しました。立部の新池跡案内板も同様です。

この西除橋は「平成四年三月竣工」と刻まれており、同年に新しく付け替えられたことがわかります。西除川は、昭和五十七年(一九八二)八月一日より三日にかけて台風十号と九号崩れの低気圧による記録的な豪雨に見舞われました。本市でも西除橋のある岡から北へ布忍橋の北新町にかけて、まれにみる大洪水となり、浸水家屋二、三〇〇余戸におよんだのでした。

このため、大阪府では「河川激甚災害対策特別緊急事業」によって西除川の大改修工事を始めました。河道を洪水から防ぐため、流路を部分的に付け替えたり、堤を高くし、河床を切下げるなど、昭和六十三年(一九八八)七月、五年有余の歲月をかけて工事は完成したのでした。西除橋付近も流路の変更などが行われ、のち西除橋も再建されたのです。

そもそも、周辺では岡の西北部にあたる河合付近を境にして、南側には自然の浅い谷を堰止めて作った谷池タイプのため池が多くありました。一方、北側では七・八世紀ごろの計画的な条里制施行につくられた方形の皿池タイプのため池が散在していました。

西除川では、西除橋のすぐ上流、大阪中央環状線に架かる丹南橋の手前に河合

の田畑に水を送る河合井堰が見られます。狭山池(大阪狭山市)から出た西除川筋で八番目の井堰で、本市では最初のものです。もともとは切石積形式の井堰でしたが、河川改修工事にともない、今はファブリダムとよばれ、両岸からの空気膨張式のゴム起伏堰となっています。ここから、河合小学校南側の古池へ水を送り、遊水・保水機能が果されています。

河川改修工事のおり、西除橋から丹南橋をこえたすぐ、左岸の堺市美原区今井で奈良時代の川の岸辺跡が検出されました。そこからは、十六世紀の戦国時代まで続く地層から建物柱跡や瓦・土器、および鑄物の鑿羽口などが見つかっています。このことから、周辺は、奈良時代の貨幣である和同開珎鑄造に関わったと言われる多治比氏の河内鑄銭司が居たと記述する奈良時代の歴史書から推測して、鑄物師たちのムラの一つではないかとも考えられます。八下遺跡とよんでいます。竹内街道はすぐ北側を走っていますが、街道近くの丹南や岡遺跡では、日本遺産の構成文化財となった平安時代から鎌倉・室町時代にかけての河内鑄物師の居住地として知られています。西除橋付近には、すでに奈良時代から鑄物師集団のルーツとして人々の往還が見られたと思われま。

西除橋と立部新池跡に建てられた二基の案内板は、松原における日本遺産を広く内外に知らしめる記念物として、街道を通る人々を見続けています。